

2023年度 4月入学

2022年度10月入学

九州工業大学大学院生命体工学研究科
博士前期課程 学生募集要項

推 薦 選 抜

国立大学法人九州工業大学
大学院生命体工学研究科

※変更が生じた場合は、以下のホームページでお知らせいたします。

九州工業大学ホームページ

<https://www.kyutech.ac.jp/>

生命体工学研究科ホームページ

<http://www.lsse.kyutech.ac.jp/>

2023年度4月入学・2022年度10月入学試験日程

【推薦選抜 Admissions on Recommendation】

【一般選抜 Admissions for General Applicants】

【社会人特別選抜 Special Admissions for Adult Students】

【外国人留学生特別選抜 Special Admissions for International Students】

	事前審査出願期間 Application Period for Screening	願書出願期間 Application Period	選 抜 日 Examination Date	合格者発表日 Announcement of Successful Applicants Date
第1回入学試験 The 1st selection 【推薦選抜】 【社会人特別選抜】 【外国人留学生特別選抜】	2022年5月9日(月) ∩ 2022年5月13日(金) ※1	2022年6月2日(木) ∩ 2022年6月9日(木)	2022年7月2日(土) 2022年7月3日(日) のうち一日※	2022年7月8日(金)
第2回入学試験 The 2nd selection 【一般選抜：筆答試験】 【社会人特別選抜】 【外国人留学生特別選抜】	2022年7月4日(月) ∩ 2022年7月8日(金)	2022年8月1日(月) ∩ 2022年8月5日(金)	2022年8月27日(土) 2022年8月28日(日) のうち一日・ 一般選抜は、両日※	2022年9月6日(火)
第3回入学試験 The 3rd selection 【一般選抜：口述試験】 【社会人特別選抜】 【外国人留学生特別選抜】	2022年8月18日(木) ∩ 2022年8月24日(水)	2022年9月13日(火) ∩ 2022年9月21日(水)	2022年10月8日(土) 2022年10月9日(日) のうち一日※	2022年10月14日(金)
第4回入学試験 The 4th selection 【一般選抜：口述試験】 【社会人特別選抜】 【外国人留学生特別選抜】	2022年12月5日(月) ∩ 2022年12月9日(金)	2023年1月6日(金) ∩ 2023年1月12日(木)	2023年2月4日(土)	2023年2月10日(金)

※1 【推薦選抜】は、事前審査はありません。

※ 選抜日の詳細は、各回・選抜の募集要項をご確認ください。

※ 2022年度10月入学試験は、第1回(推薦選抜)及び第2回(一般選抜)で実施します。

※ 定員を満したした場合、以降の募集は行わない場合があります。

※ インターネット出願登録期間は各回募集要項をご確認ください。

必ずお読みください

※本学生募集要項に関して、追加事項等がある場合、本学ホームページにて随時周知しますので、出願前によく確認してください。

※2023年度4月入学・2022年度10月入学大学院生命体工学研究科博士前期課程の学生募集に関して、予告する事項がある場合、本学ホームページにて随時周知します。

九州工業大学ホームページ <http://www.kyutech.ac.jp>

目 次

I 推薦選抜（2023年度4月入学・2022年度10月入学）

1. 募集人員	1
2. 出願資格	1
3. インターネットを利用した出願手続き及び出願期間	2
4. 受験票について	5
5. 選抜方法	5
6. 面接試験の日時・方法	6
7. 受験環境の事前準備	6
8. 合格者の発表	6
9. 入学時に要する経費	6
10. 注意事項	6
11. 個人情報の取扱い	6
12. 授業料について	7
13. 奨学金について	7
14. 安全保障輸出管理について	7
15. キャンパス全面禁煙について	7
16. 留学生のための特別コースについて	7

II 大学院博士前期課程アドミッション・ポリシー 8

III カーロボ AI 連携大学院について 10

IV 長期履修制度について 11

付表 主要教育研究分野別一覧

1. 生体機能応用工学専攻	12
2. 人間知能システム工学専攻	15

I 推薦選抜（2023年度4月入学・2022年度10月入学）

1. 募集人員

専攻名	講座名	募集人員	
		2023年 4月入学	2022年 10月入学
生体機能 応用工学	グリーンエレクトロニクス	28	若干名
	生体メカニクス		
	環境共生工学		
	☆ グリーンテクノロジー		
人間知能 システム工学	人間知能機械	24	若干名
	人間知能創成		
	人間・脳機能		
	☆ ヒューマンテクノロジー		

注) ☆印：研究指導は、連携講座の研究機関において受けることがあります。

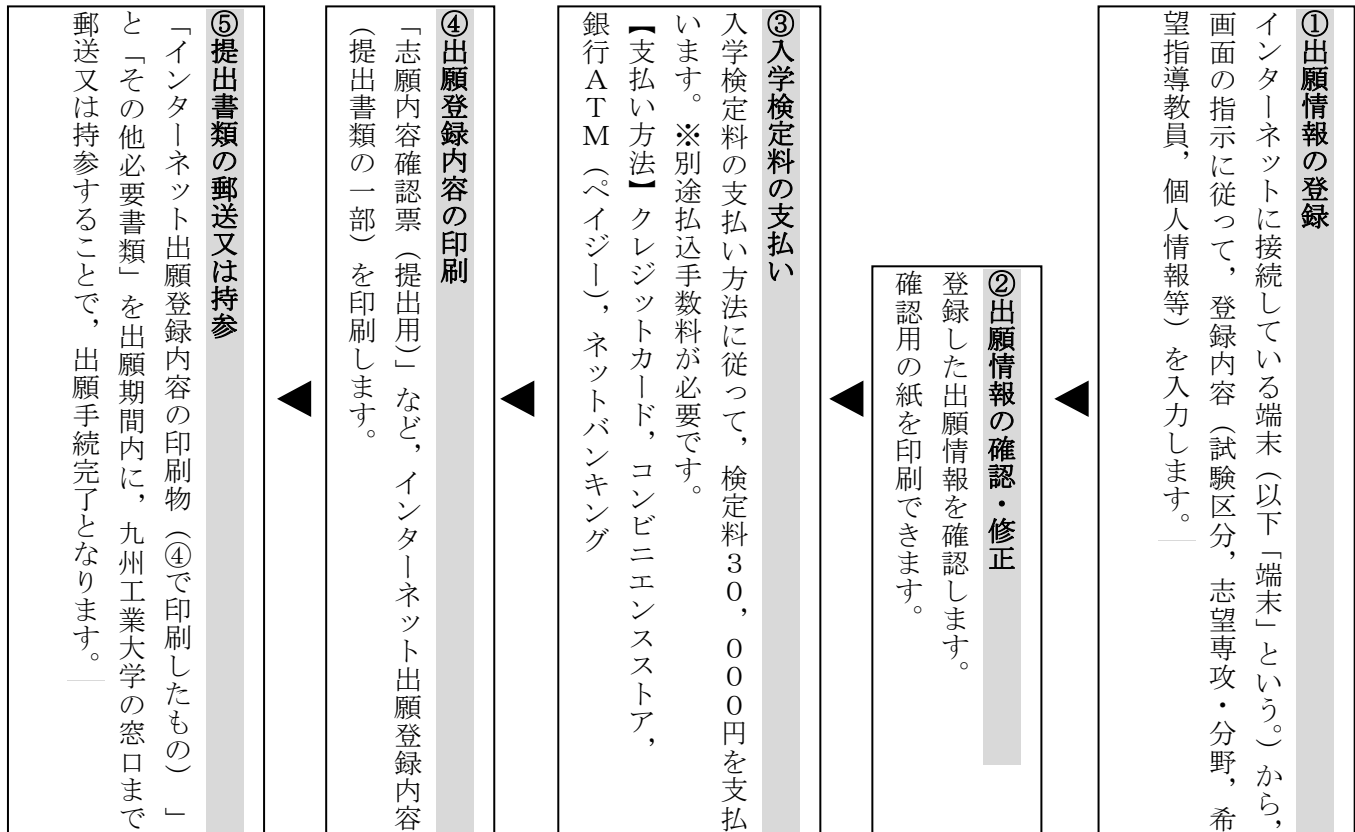
2. 出願資格

学業及び人物ともに極めて優れているものとして、出身（在籍）大学等の学部長等から推薦され出願した者で、次のいずれかに該当するもの。ただし、本学卒業者及び卒業見込者については、推薦書は不要です。合格した場合には必ず入学を確約できる者としします。

- (1) 大学を卒業した者及び2023年3月（ただし、2022年10月入学志願者は、2022年9月とする。以下の各号において同じ。）までに卒業見込みの者
- (2) 高等専門学校で修業年限2年の専攻科に在籍し、2023年3月までに学士の学位を取得見込の者（学位を取得できない者は、入学できない。）
- (3) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び2023年3月までに授与される見込みの者

3. インターネットを利用した出願手続き及び出願期間

インターネットを利用した出願手続き及び出願期間募集要項の出願資格、出願期間、出願手続、選抜方法及び試験日等をすべて確認した後のインターネットを利用した出願手続の流れは、次のとおりです。



（注1）インターネットを利用した出願手続において、インターネット環境以外で事前準備が必要となる主な事項は、次のとおりです。

ア 次のいずれかに該当する入学志願者は、インターネット出願登録を開始するためのパスワードが必要です。出願することが確定した段階で、必ず生命体工学研究科教務・入試係 (sei-nyushi@jimu.kyutech.ac.jp) に電子メールで連絡し、パスワードを取得してください。

- 1 外国人留学生特別選抜に出願する者
 - 2 日本政府（文部科学省）国費外国人留学生
 - 3 本学が指定する自然災害の被災者で、入学検定料の免除申請を行ったもの
- ※ 電子メールで連絡する際は、「志願者氏名」、「試験区分（一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜など）」、「志望専攻・分野」、「希望指導教員」及び「上記1～3のいずれに該当するか」を電子メールの本文に必ず記載してください。
- ※ メールタイトルは「インターネット出願登録パスワード請求」として送信してください。
- ※ パスワード取得の電子メール受付時間は、午前8時30分から午後5時までです。ただし、土・日・祝日及び大学の休業日は除きます。

- イ 入学検定料の支払い方法を確認してください。コンビニエンスストア，銀行ATM（ページー），クレジットカード及びネットバンキングのいずれかでお支払いが可能です。
- ウ 電子メールアドレスが必要となります。スマートフォン・携帯電話の電子メールアドレスやフリーメールのアドレスも利用可能です。（この電子メールアドレス宛に，インターネット出願登録完了等のメールを配信します。）
- エ A4サイズ of 用紙が印刷できるプリンタ（モノクロ，カラーどちらでも可）が必要となります。印刷用紙は普通紙で構いません。（インターネット出願登録内容等を印刷することになります。）
- オ 下記「(2) 提出書類について」のうち，「その他必要書類」を用意してください。書類の内容によっては，準備に時間を要する場合があります。

(注2) 自宅や在籍する学校・予備校等に，インターネット出願登録ができる環境が整っていない場合は，事前に，入試課入試実施係（093-884-3056）までご相談ください。

本研究科に入学を志願する者は，次の(1)～(5)により，手続きを行ってください。

(1) インターネットを利用した出願情報等の登録について

インターネットを利用して，①出願情報の登録，②出願情報の確認・修正，③入学検定料 30,000円（別途，要払込手数料）の支払い，④出願登録内容の印刷を行ってください。

なお，インターネット出願登録の手順は，下記URL<インターネット出願登録サイト>に掲載されているとおりです。

- ※ インターネット出願登録後，(2)の提出書類を郵送又は持参することで，出願完了となります。(3)の出願期間内に提出書類の郵送又は持参がない場合，出願未完了（登録データは無効）となりますので，注意してください。
- ※ インターネット出願登録内容の変更については，入学検定料を支払い，提出書類を郵送又は持参した後は，出願登録内容の変更はできません。
（入学検定料のお支払い方法確認画面の「登録」ボタンを押す前であれば，インターネット出願登録サイトにて，志願者自身で変更できます。また，「登録」ボタンを押した後でも，入学検定料を支払う前であれば，再度出願登録を行うことで，変更できます。なお，入学検定料を支払った後で，提出書類を郵送又は持参する前に変更を希望する場合は，インターネット出願登録後に印刷した「志願内容確認票（提出用）」のチェック欄を確認してください。）
- ※ その他，入学検定料の支払い方法，インターネット出願登録に関するよくある質問など詳細については，下記<インターネット出願登録サイト>をご覧ください。インターネット出願登録マニュアルも<インターネット出願登録サイト>に掲載しています。

<インターネット出願登録サイト>

<http://www.kyutech.ac.jp/examination/gs-internet-application.html>

(2) 提出書類について

インターネット出願登録完了後、次に掲げる書類等を一括取り揃え、所定の期日までに生命体工学研究科教務・入試係へ提出してください。

出 願 書 類 等		注 意 事 項
インターネット出願登録内容の印刷物	①志願内容確認票（提出用）	インターネット出願登録後、印刷したもの
	②写 真 票	以下の条件を満たす写真を用意し、裏面に志望専攻及び氏名を記入し、写真票に貼り付けてください。 1. 上半身・無帽・正面向きで、3ヶ月以内に単身撮影したもの 2. 縦 4.5cm×横 3.5cm のもの 3. 画像が鮮明であること
	③宛 名 ラ ベ ル	提出書類を郵送する場合は、インターネット出願登録後、印刷したものを、市販の角形 2 号封筒（240mm×332mm）に貼り付けてください。
その他必要書類	④卒業（見込）証明書	出身大学が作成したもの
	⑤学位取得（見込）証明書等	出願資格（3）により出願する者で、大学評価・学位授与機構が発行したもの。 学士の学位取得見込みの者は、短期大学長又は高等専門学校長の発行する当該専攻科の修了見込証明書及び大学評価・学位授与機構に学士の学位授与申請予定であることの証明書を提出してください。
	⑥成 績 証 明 書	出身学校が作成したもの（専攻科の場合は、本科の成績を含む。）
	⑦推 薦 書	本学所定の用紙を用い、出身大学・高等専門学校等の学部長、学科長又は指導教員が作成し、厳封したもの。 ただし、 <u>本学卒業生及び卒業見込者は不要</u> です。 なお、様式はインターネット出願登録サイト「出願登録完了」画面からダウンロードしてください。
⑧研究分野等志望調書	本学所定の用紙を用い、専攻、志望理由及び本研究科における研究計画等を記入してください。 ※本調書の記述内容は、書類審査の対象となります。 ※両専攻にまたがる志望はできません。 ※志望先担当教員の研究室の受入れが充足している場合は、志望外の研究室に配属されることがあります。	

		*本冊子公表後、教員の異動があった場合は、本学ホームページ (http://www.kyutech.ac.jp) にて随時お知らせしますので、よく確認してから記入してください。
	⑨業績報告書	卒業論文、研究論文があれば提出してください。 (様式任意。可能な限り、別冊及び業績概要を添付してください。)
	⑩在留資格証明書(査証手続きの済んだもの)の写し、又は住民票の写し	外国人志願者のみ提出してください。ただし、現在外国に居住している志願者は除きます。

(3) 出願期間及びインターネット出願登録期間について

出願期間(提出書類受付期間)は、次のとおりです。

2022年6月2日(木)～6月9日(木) 16時必着

※ただし、インターネット出願登録期間は、「2022年5月31日(火)～6月9日(木)16時まで」としており、事前に登録可能です。

なお、インターネット出願登録だけでは、出願手続きは完了しません。(出願期間内に提出書類を郵送又は持参することで完了します。)

(4) 提出先

〒808-0196 北九州市若松区ひびきの2番4号
九州工業大学大学院生命体工学研究科教務・入試係
電話 093-695-6006

(5) 提出方法

・郵送の場合

市販の角形2号封筒(240mm×332mm)に、インターネット出願登録完了後に印刷した宛名ラベルを貼り付け、提出書類を入れて、「速達簡易書留郵便」で郵送してください。

(※2022年6月9日(木)16時必着)

・持参の場合

上記(4)の提出先に提出してください。(※2022年6月9日(木)16時まで)

なお、受付時間は午前9時から午後4時までです。ただし、土・日・祝日は除きます。

4. 受験票について

2022年6月24日(金)10時以降に受験票をダウンロードできますので、インターネット出願登録サイトの「申込確認」ボタンから受験票をA4サイズで印刷して、当該受験票を試験当日に持参してください。本学から受験票を発送することはありませんので、注意してください。

なお、受験票の印刷手順は、インターネット出願登録サイト

(<http://www.kyutech.ac.jp/examination/gs-internet-application.html>)に掲載しているインターネット出願登録マニュアルを参照してください。

また、受験票は、入学手続き時まで保管してください。

5. 選抜方法

書類審査及び面接試験(口頭試問を含む。)の結果を総合的に判断します。

6. 面接試験の日時・方法

- (1) 日 時 2022年7月2日(土)、3日(日)のいずれかの生命体工学研究科が個別に指定する日時
- (2) 面接方法 Zoom (<http://zoom.us>) を用いて、個別に遠隔面接を行います。
Zoom 待機室への集合日時は、ミーティング ID、パスワード等とともに郵送でお知らせします。 6月24日(金)までに郵便物が届かない場合は、生命体工学研究科教務・入試係にお問い合わせください。

7. 受験環境の事前準備

当日までに余裕をもって受験環境の準備をしてください。

- (1) 電子端末(デスクトップ、ノート PC またはタブレット端末)を準備してください。
- ・カメラ、マイク、スピーカー機能を使用できるもの、または付加したもの。
 - ・事前に最新版の Zoom (<http://zoom.us>) をダウンロードし、ミーティングテストなどを利用して、オーディオ設定等を確認しておいてください。
- (2) イヤホンまたはヘッドホンを準備してください。
- (3) ネットワーク回線を準備してください。
- ・遠隔面接での通信時間は、待機時間を含めて最大 40 分程度です。
 - ・接続環境安定のため、できるだけ有線での接続を推奨します。なお、面接中に使用するデータ量が容量制限にかからないよう、あらかじめ契約内容を確認してください。
 - ・自身でネットワーク回線が準備できない場合や通信速度に不安がある場合は、現在のご所属の大学・高専等に協力を依頼してください。
- ※ Zoom を用いた遠隔面接受験にあたっては、別途ホームページ掲載の「オンライン面接受験マニュアル」を必ず確認してください。

8. 合格者の発表

2022年7月8日(金)午前10時頃から、ホームページ (<http://www.kyutech.ac.jp/>) 上に合格者の受験番号を掲載します。

また、合格者には発表と同時に「合格通知書」等を郵送します。

電話等による可否の問い合わせには応じられません。

9. 入学時に要する経費

- (1) 入学料 282,000円(予定額)
- ※ 日本政府(文部科学省)国費留学生は不要です。
- (2) 学生教育研究災害傷害保険料 1,750円(予定額)
- (3) 後援会費 10,000円(予定額)

10. 注意事項

- (1) 本研究科の詳細については、ホームページ (<http://www.lsse.kyutech.ac.jp/>) を参照してください。
- (2) 障害等があり、受験及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、なるべく早い時期に生命体工学研究科教務・入試係に相談してください。
- (3) 出願手続き後は、提出書類の内容変更は認めません。
- (4) 納入した入学検定料及び提出書類は、原則返還しません。

11. 個人情報の取扱い

本学が取得した個人情報については、入学者選抜で利用するほか、次のとおり利用します。

- (1) 入学者選抜で利用した成績等を，入学後の学習指導等で利用します。
- (2) 入学者選抜で利用した成績等を，1年次における授業料免除等の就学支援業務で利用します。
- (3) 入学者選抜で利用した成績等の個人情報をも，個人が特定できない形で，本学における入学者選抜に関する調査研究等で利用することがあります。

※ 本学が取得した個人情報については，「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き，出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

12. 授業料について

授業料〔前期分・後期分とも各267,900円（予定額）〕は，入学手続き時に申請していただく銀行又はゆうちょ銀行の指定口座から引き落とします。（前期は4月，後期は10月）

13. 奨学金について

日本学生支援機構の奨学金については，第一種（無利子）及び第二種（有利子）があります。第1回～第3回入学試験合格者には，郵送で募集の案内をします。第4回入学試験合格者で貸与を希望される方は，入学後，生命体工学研究科学生・留学生係に申請書類を取りに来てください。なお，日本学生支援機構の他に，企業や地方公共団体などの奨学金があります。生命体工学研究科2階端末室横の掲示板で案内しますので，各自ご確認ください。

14. 安全保障輸出管理について

九州工業大学では，「外国為替及び外国貿易法」に基づき，「九州工業大学安全保障輸出管理規程」を定め，外国人留学生の受け入れに際して厳格な審査を実施しています。規則事項に該当する場合は，希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので，ご注意ください。なお，詳細については，下記のホームページを参照願います。参考 <http://www.kyutech.ac.jp/exchange/ anpo/>

15. キャンパス全面禁煙について

九州工業大学では，学生並びに教職員の疾病予防，健康の維持・増進，さらには快適な学習・職場環境づくりを推進していくために，全キャンパスは令和元年10月1日をもって全面禁煙となりました。なお，詳細については，下記のホームページを参照願います。URL: <https://www.kyutech.ac.jp/information/nonsmoking.html>

16. 留学生のための特別コースについて

以下のコースは留学生を対象にした英語で授業などを行う特別コースです。日本人学生が受講を希望する場合、入学後、主指導教員と相談のうえ、所定期間内に履修申請をしてください。

- ・ Global AAR Course
- ・ Global Green Energy and Electronics Course

参考 http://www.lsse.kyutech.ac.jp/departments/special_courses.html

II 大学院博士前期課程アドミッション・ポリシー

九州工業大学大学院は、開学以来の理念である「技術に堪能なる士君子」の養成に基づき、高い専門性と深い学識を持ち、卓越した能力と豊かな創造性を持って、研究・開発に従事できる高度技術者を育成します。

理工学系専門分野において、独創的思考および研究開発活動を行うための高度な知識と実践的解決力の修得を目指し、これらに必要な基礎学力、専門基礎知識を修得しているとともに、国際化に対応できるコミュニケーション力、様々な文化の理解、技術が社会に果たす役割の理解、自立性、協調性を身につけている皆さんの入学を期待します。

- (1) 技術者に必要な基礎学力と工学専門分野の知識を修得し、自然現象を科学的に理解できる
- (2) 人、社会及び文化に関して理解できる
- (3) 工学・技術が社会で果たす役割を理解できる
- (4) 背景や文脈を理解して適切に説明できる日本語能力、および外国語によるコミュニケーションの基本的能力を修得している
- (5) 問題解決に必要な論理的思考力、分析力、説明能力を修得している
- (6) 技術者としての倫理観と責任感を備え、社会に貢献する志を有する
- (7) 自己を律する自己管理ができ、自発的な活動ができる
- (8) 人々と協調でき、個人の能力も発揮できる

○生命体工学研究科

【技術者及び研究者としての養成目標】

本研究科は、生物の持つ、省資源、省エネルギー、環境調和、人間との親和性等の優れた構造や機能を解明し、それを工学的に実現し応用することのできる技術者や研究者の養成を目指しています。さらに、社会と連携して社会のニーズに応えることにより、現代社会の諸問題を解決し、自然との持続的な調和に貢献でき、グローバル社会で活躍できる人材の養成も目指しています。

【求める人材】

(1) 工学を支える基礎学力を修得しており、(2) 専門分野だけでなく融合分野にも興味を持ち、(3) 社会のニーズに応え、技術で社会に貢献する使命感に燃え、(4) 論理的に物事を捉え、分析でき、(5) グローバルな視点で物事を考えることができる人材を求めます。

【推薦選抜試験で受け入れる人材】

(1) 生体機能や人間知能に関する知識と工学的応用技術を修得して、産業や研究機関のニーズに応えることに強い興味と情熱を持つ優秀な人材を受け入れます。

【一般選抜試験で受け入れる人材】

(1) 技術者に必要な基礎学力を持ち、(2) 外国語によるコミュニケーションのための基本的能力を修得している人材を受け入れます。

【社会人特別選抜試験で受け入れる人材】

(1) 社会人で在職のまま修学し、(2) 生体機能や人間知能に関する知識と工学的応用技術を修得し、より社会に貢献したいという人材を受け入れます。

【外国人留学生特別選抜試験で受け入れる人材】

(1) 生体機能や人間知能に関する知識と工学的応用技術に対する強い学習意欲とそれを学ぶための基礎学力を持ち、(2) グローバルな視野を持って、国際社会のニーズに応えようとする人材を受け入れます。

【入学者選抜の基本方針】

推薦選抜

(1) について、書類審査及び面接試験（口頭試問を含む）により評価します。

一般選抜

(1) については学力検査、面接試験、書類審査等により、(2) については TOEIC/TOEF のスコア等により評価します。

社会人特別選抜

(1) については書類審査により、(2) については面接、口述試験及び書類審査により評価します。

外国人留学生特別選抜

(1)、(2) について、面接、口述試験及び書類審査により評価します。

○生体機能応用工学専攻

【技術者及び研究者としての養成目標】

生体の持つ省エネルギー性、高効率性、環境調和機能等の優れた機能を工学的に実現し、社会的問題を解決できる技術者や研究者の養成を目指しています。

【求める人材】

(1) 工学系の学問を深く修得する資質を有し、(2) 学問の応用や技術の展開を目指し、(3) グローバルエンジニアを志す人材を求めます。

○人間知能システム工学専攻

【技術者及び研究者としての養成目標】

人間知能の原理を知的システムや知能情報処理として工学的に実現し、産業界などへ貢献することを介して社会の諸問題を解決できる技術者や研究者の養成を目指しています。

【求める人材】

(1) 知能情報処理や知的ロボット・デバイス、脳科学・認知科学等に興味を持ち、(2) 人間知能の工学的実現を通して社会に貢献する意欲にあふれた人材を求めます。

Ⅲ カーロボ AI 連携大学院について

生命体工学研究科を含む、北九州学術研究都市にキャンパスを有する北九州市立大学および早稲田大学の3大学院、さらに戸畑キャンパスの工学府と飯塚キャンパスの情報工学府加えた3研究科・2学府が連携大学院を開設しています。ここでは、**今後ますます高度化・知能化が進む自動車・ロボット・人工知能（AI）**に関わる高度専門人材育成のために、産学連携による実学のノウハウを活用した教育体系を整えています。募集定員は本研究科で20名程度、連携大学院担当教員により入学直後に書類審査・面接により選抜が行われます。通常の研究科・専攻での履修に付加されるコースです。

本連携大学院を履修する学生は、以下の選択必修科目を含めて、指定された単位互換科目の中から定められた単位数を修得します。さらに、以下の総合実習のいずれかを選択することが推奨されます。修了生には修了証を発行します。

主に夏休み期間中に開催される総合実習では、**機械・制御・情報・電子の工学系の幅広い分野を専門とする学生が、博士課程学生から高専本科生（インターンシップ制度を利用）に至るまで幅広い年代の学生がチームを作り、自家用車を用いた自動運転や等身大家庭用サービスロボットを用いた実習を行います。**これにより、深い専門性に加えて幅広い見識を備えた「T字型人材」の養成を目指します。

選択必修科目

- ・ 自動車工学
- ・ 知能・ロボット工学概論
- ・ AIセミナー

総合実習

- ・ @ホームサービスロボット製作総合実習
- ・ 農業用ハウス環境制御総合実習
- ・ 自動運転車制御総合実習（早稲田大学開催）
- ・ AI ミニロボット製作総合実習（北九州市立大学開催）
- ・ BMI・ミニロボット製作総合実習（冬季開催）

詳細は連携大学院ホームページ（<https://jgs.kyutech.ac.jp/>）を参考にしてください。

- 正式名称：自動車・ロボットの高度化知能化に向けた専門人材育成連携大学院
- 沿革：
 - ・平成21年4月：「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」を開設
 - ・平成25年4月：「インテリジェントカー・ロボティクスコース」を開設
 - ・平成29年4月：インテリジェントカー・ロボティクスコースに「AIサブコース」を併設
 - ・平成31年4月：両コース・AIサブコースを統合して、カーロボAI連携大学院として再編
- 対象者及び定員：九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学の各大学院に所属する博士前期課程の学生、60名程度。
- 3大学が、（公財）北九州産業学術推進機構（FAIS）と自動車・ロボット関連企業の協力を得て講座を企画（単位互換制度を活用）
- 関連企業技術者と少人数の履修生で構成される「オフサイトミーティング」による職業観の醸成

IV 長期履修制度について

1. 制度趣旨

学生が職業を有していること等により、学修時間の制約を受け、標準修業年限で履修が困難な場合、申請に基づき4年を限度として、計画的な履修を認めることができます。

計画的な履修を申請し、履修許可を受けた場合、許可された年限内であれば標準修業年数（2年）分の授業料で修了することが可能です。

2. 授業料の取り扱い

長期履修が許可された場合の授業料については原則として「定められた授業料の年額×標準修業年限（2年）÷長期履修を許可された年限」により算出された金額を、各年毎に支払うこととなります。在学中に授業料の改定が行われた場合は、再計算され、改定時から新授業料が適用されます。

なお、長期履修許可期間終了後も引き続き2年間在籍は可能ですが、その場合は一般の学生と同額の授業料が徴収されます。

【参考：授業料徴収方法】

(1) 標準修業年限（2年）

	1年目	2年目	—	修了までに要する総額
年額	535,800	535,800	—	1,071,600

(2) 入学時に長期履修（4年）を申請

	1年目	2年目	3年目	4年目	修了までに要する総額
年額	267,900	267,900	267,900	267,900	1,071,600

(3) 入学時に長期履修（4年）を申請していた者が、1年次終了時に2年短縮した場合

	1年目	2年目	—	修了までに要する総額
年額	267,900	535,800	—	1,071,600
差額	267,900	←変更許可時に徴収。		

(注)上記の金額は令和3年度額につき、在学中を含め、今後変更される場合があります。

3. 履修期間について

長期履修期間は最大4年を限度として、下記のとおり「年」単位で取り扱います。

- (1) 入学当初からの申請 : 標準修業年限2年のところ、3年または4年での申請可
- (2) 1年次終了時からの申請 : 長期履修前の期間を含め4年まで申請可

4. 長期履修期間の変更等について

相応の理由があると認められる場合、長期履修期間の変更（延長・短縮）ができ、下記のとおり取り扱われます。ただし、履修計画最終年次での申請・変更は出来ません。

短縮： 9月修了希望の場合は前年度の2月末日までに、3月修了希望の場合は8月末日までに、申請し、許可を受け、差額の授業料を納めた上で、翌年次から短縮することが可能です。ただし、標準修業年限未満での短縮修了は認められません。

延長： 延長を希望する年度の前年度の2月末日（10月入学者にあつては8月末日）までに、申請し、許可を受けることで、長期履修前の期間を含め最大4年までの延長が可能です。授業料は標準修業年数（2年）分の授業料となるよう、再計算されます。

5. 申請手続き

修業までの見通し等を含め、履修計画等指導教員と相談の上「長期履修申請書」、「申請理由を証明するために必要と認められる書類」を生命体工学研究科教務・入試係へ提出してください。「長期履修申請書」等の様式については、合格後に配付します。不明な点は、生命体工学研究科教務・入試係までお問い合わせください。

付表 主要教育研究分野別一覧

1. 生体機能応用工学専攻

講座名	主要教育研究分野	主要教育研究内容	担当教員
グリーンエレクトロニクス	パワーエレクトロニクス	パワーエレクトロニクス技術を応用し、人や環境に優しく、省エネルギーを実現する電力変換装置の開発やその応用に関する研究を行っています。具体的には電力用静止機器の電力変換装置やモータのセンサレス制御、高性能高効率駆動制御技術についての研究をしています。	花本 剛士
	グリーンエレクトロニクス：パワーデバイスおよびパワーエレクトロニクス	パワーデバイスとパワーエレクトロニクスの研究を行っています。材料・デバイスからシステムまでをカバーしている総合力が特徴です。カーボンニュートラル実現に向けて研究を行っています。最近ではxEVや風力などの自然エネルギーの活用、超長距離電力伝送に幅広く使われています。将来は海外の砂漠に設置された太陽光発電所の電気を皆さんが自宅で使う日が来ると思います。（当研究室は次世代パワーエレクトロニクス研究センターに属しています。ホームページ： http://power.kyutech.ac.jp/ ）	大村 一郎
	ナノ材料・エネルギー変換システム	生体の高効率なエネルギー変換システムを学び、そのメカニズムを応用した新エネルギー変換素子を開発します。また光電変換デバイスに使用するナノ材料の開発も行っています。具体的にはナノ機能材料及び電気触媒などの材料合成を行い、ペロブスカイト太陽電池などの次世代光電変換デバイス及び新型二次蓄電池の開発を行っています。これらの研究を通して、新エネルギーや環境に興味を持つ学生を育成します。また、国際化プログラムを推進するために、アジアの研究者及び留学生を受け入れています。留学生及び外国研究者との交流を通して国際舞台で活躍できるエンジニアの育成に努めます。	馬 延麗
	電気化学デバイス・有機エレクトロニクス・材料工学	光合成の仕組みを利用した太陽光を電気に変える有機系の次世代太陽電池と柔軟性を用いた簡単と低コストで作製できる有機電子デバイスの研究を行っている。目的を達成するためには太陽光を吸収する新色素（近赤外色素）の合成、電荷を効率的に運ぶ高い電子及びホール輸送する有機半導体とそれの簡便製膜技術の開発が必須である。上記光機能性分子を分子軌道計算で設計、合成し、それらの応用は太陽電池及び有機エレクトロニクス分野に有用性を評価している。計算化学—合成—基礎物性デバイス評価までの広い領域をカバーし、高効率有機太陽電池と有機エレクトロニクスデバイス作製のための指針を提案し、環境を通じて社会に貢献することを研究の目的としている。	バンディヤム ステイル
	パワー半導体、電気電子材料	ダイヤモンドを電子デバイスに応用する研究を行っています。ダイヤモンドは半導体としての優れた特性を持っており、その性質を応用した高性能・新機能の電子デバイスを実現することで脱炭素社会の実現に貢献します。（研究室ホームページ： http://www.life.kyutech.ac.jp/~watanabe/ ）	渡邊 晃彦
生体機能応用工学	生体力学	材料力学や機械設計、計測、計算機シミュレーションを活用して、医療支援（医・歯・看護系と工学の連携）や製品設計指針に関わる研究を行います。すなわち、血管の数値解析を行い、動脈硬化や動脈解離などの病変の力学的知見を提供します。骨突起部の軟組織（皮膚・血管）・マットレスの変形測定や有限要素解析を行い、褥瘡の合理的な予防を支援します。歯科保存修復治療具の有限要素解析を行い、治療技術や材料利用技術を検討します。	山田 宏
	生体流体力学	先端医療をより高度化するため、機械工学、特に流体工学やそのほか力学の知識を用い、(1)人工臓器開発のための血液流れの溶血・血栓現象の数値的・実験的解明、(2)衝撃波を利用したドラッグ・デリバリー・システム（DDS）の開発、(3)衝撃波を利用した環境バイオプロセスの開発、(4)再生医療のための衝撃波細胞増殖制御、血液内の白血球の走化性の物理的解明とマイクロマシン動力源としての応用、(5)循環器系流れのフラクタルを利用した流れの数値シミュレーションとその高速計算のアルゴリズムの開発、(6)気泡や超音波の医療応用、(7)衝撃波による細胞変形挙動解明、さらには(8)気泡を用いた上下水浄化システム向上、(9)高齢者の転倒による脳損傷のシミュレーションによる解析、などの研究を行っています。（キーワード：流体工学、生体医療工学、医用流体機器、血液流れ、血栓と溶血、衝撃波、気泡、DDS、転倒時衝撃、水処理）	玉川 雅章

生 体 メ カ ニ ク ス	バイオマイクロデバイス	半導体加工などのマイクロ・ナノ加工技術を利用して実現される微小な構造と機能は、マイクロマシンやMEMS (Micro Electro Mechanical Systems) と呼ばれます。このMEMS技術とバイオ技術を融合することで、医療や創薬に貢献する革新的なマイクロデバイスを構築します。例えば、シリコン基板上に微小な培養容器、流路、電極などを形成し、その上で細胞を安定的に培養する技術、細胞を局所的に刺激する技術、細胞の電気的・化学的応答を計測する技術などを構築し、再生医療や病気のメカニズム解明に必要な細胞解析、新薬の効果や安全性の評価などを行うことが可能なマイクロデバイスを実現します。	安田 隆
	生 体 機 能 材 料	病気やけがにより損傷を受けた生体組織の機能を代替する生体材料の合成と評価を行っています。主として骨や歯、軟骨等の修復に焦点を合わせ、材料の持つ特性を引き出しながら、優れた生体親和性を発揮する新素材を設計します。例えば、生体内で異物反応なく骨と自然に結合できる人工骨を、セラミックス、金属、高分子、あるいは有機-無機ナノハイブリッド等から創成し、その微細構造や化学的特性、生物学的親和性を評価します。さらに、生物が小さなエネルギー消費で骨や貝殻を作り出すプロセスに学び、常温常圧の下で高機能セラミックスを合成し、医療や環境浄化等に応用する試みも進めています。最近では、上記に加えてがん治療や薬剤徐放を支援するセラミックス微粒子の研究も展開しています。	宮崎 敏樹
	知 能 機 械	近年、ロボット技術が医療・福祉分野に適用され、ロボットが人と接する機会が増えています。その場合、従来の産業用ロボットとは異なり、人とロボットが接したときのお互いの損傷が少ないよう柔軟な素材を使ってセンサやアクチュエータを構成することが必要です。そのような背景から、「柔軟なセンサ・アクチュエータの医療・福祉・産業への応用」を目指し、(1)形状記憶材料や人工筋肉のロボットへの応用、(2)低侵襲治療機器にも用いることのできる柔軟な触覚センサ、(3)血管内治療用シミュレーションシステムなどの研究を行っています。	高嶋 一登
	MEMS ベース 医 工 学	マイクロマシニングにより作製するMEMSやマイクロ流体デバイスを、がん研究に役立てることを目指します。電気で駆動する微小な機械であるMEMSを使って、生体分子同士や、生体分子と化学物質の相互作用をリアルタイムに計測します。また、硬さ・粘弾性の点から、がん細胞を評価していきます。数センチ角サイズのマイクロ流体デバイス内では、効果的に細胞の状態を観察したり、微量の試料の反応や検出を行います。	久米村 百子
	呼 応 型 機 能 材 料	人工の材料の中には、取り巻く環境に応じて自発的に構造を作り変えながら、それらと調和するものがあります。しかしながら、自然界や生物の体内で起こる変化 (pH, 温度, 応力, 生体分子の濃度など) に応じて多様な機能を発揮する材料は未開拓です。 セラミックスや金属の骨格と有機分子を分子レベルで構造を制御しながら組み上げることで、周囲環境に呼応して機能を発現する多機能型材料を設計します。例えば、有機修飾された層状化合物にイオンや薬剤分子を組み込んだ複合材料を合成します。材料構造や哺乳類細胞の応答を調べ、細胞が発する刺激に呼応して機能を発現する材料の創製を目指します。さらに、組織再生医療や環境浄化への応用に向けて展開します。	中村 仁
界 面 機 能 工 学 分 野	地球的課題、すなわち化学による循環可能社会を実現するための研究を展開しています。とくに界面が特異な機能場・反応場であることに着目し、固液界面の機能を利用したセンサ研究、気液界面の機能を利用した大気と水の資源化、固液界面の機能による温暖化ガスの有用化合物への変換、などの研究課題に取り組んでいます。 新しい学術的発見や新しい技術の創製に院生自身が係わる機会があることはもちろんです。そして、そのような機会は、教育現場としての研究室活動に於いては、問題を見出し、問題を解決し、それを考察・総括して、口頭や文章で伝えるまでの一連の能力の育成に資するところが大きいのです。界面という様々な産業に活かされる視点は、研究室修了者のキャリアパスにも大いに活かされています。 春山研究室 (界面機能工学分野) の教育研究活動や成果、研究室OBOGのキャリアパス (就職などの進路) や活躍については、その一部を研究室のホームページ上で紹介しているので、併せて閲覧してください。	春山 哲也	

環境共生工学	微生物工学	微生物は精巧な微生物機能により、様々な過酷な環境で生き延びる術、有用な物質を造りあげる術などを兼ね備えています。そのような微生物が持つ有用な機能を工学的に応用するために、バイオフィーム形成、微生物間コミュニケーション、環境浄化などに関わる機構を遺伝子工学的かつ生物化学的な視点で解明し、その微生物機能に基づいた新規環境技術の構築を目指しています。	前田 憲成
	生物機能構造	タンパク質分解酵素検出試薬、ペプチドナノ構造体等の設計、合成およびその解析を行っています。生体分子の機能発現にはその立体構造が重要です。体外診断薬開発に向けたタンパク質分解酵素活性検出用蛍光性ペプチド、機能性ナノ構造体を形成するコラーゲンペプチドなどを有機合成し、その機能を解析することによって、生体関連分子の機能と構造の関わりを解明しています。	加藤 珠樹
	生物物質循環	持続可能な循環型社会形成に向けたバイオマス資源の利活用を中心とした教育研究を行います	脇坂 港
	光機能ナノ材料	光励起により様々な機能を発現する無機の半導体材料の開発とその反応機構の解明を目的に研究を行います。具体的には、環境浄化やエネルギー変換を引き起こすことができる光触媒やこれらを応用した光触媒電極などです。これらの反応機構を理解するために分光法をはじめとする様々な手法によって材料評価を行います。最終的には、地球環境に調和できるようなクリーンエネルギー材料を創成し社会に貢献します。	村上 直也
	生物機能分子	タンパク質や核酸類などの生体分子や独自に設計した生体機能分子を応用する工学研究を推進しています。具体的には、生体分子とナノ粒子の融合による新規機能性ナノ材料の構築を行い、食品・医療分野へ応用可能なセンサの研究開発を推進しております。また、植物・昆虫由来の機能性タンパク質をベースに独自に設計した生体分子を利用して、遺伝子組み換えタンパク質の発現を高効率化する研究や植物や微生物のストレス耐性を強化する研究を推進しています。この技術は微生物殺虫剤やバイオ医薬品などの物質生産の高効率化へ応用展開しております。	池野 慎也
	環境共生機能材料、高分子材料、低炭素化プロセス	環境問題は、様々な国や地域と連携して解決することが必要です。国際連携に根ざした研究をおこない、現実の社会を見据え、“環境”をキーワードに研究室で学んだ技術を通して国際感覚を養います。地球環境を守るだけでなく我々をも守る社会づくりに向けて、天然資源であるバイオマスを原料とする材料開発、環境と共生できる社会づくりを目指します。そのためには、資源・エネルギー及びリサイクル技術の開発と社会での技術実証は重要です。バイオマス素材の機能性を活かすために、既存技術である有機合成や高分子合成を学び、付加価値の高い材料を創生することでバイオマス由来の材料の社会への導入を進めていきます。	安藤 義人
グリーンテクノロジー	マイクロ工学	ロボティクス・グリーンテクノロジーの理解を深めながら、マイクロ・ナノスケールで出現する特異な現象を理解していきます。この現象を適用したメカトロニクスの主要パーツであるアクチュエータ・センサ材料の設計、製作技術に関する教育と研究を実施します。 ・メカトロニクス・ロボティクス製品の環境性能向上を考慮した磁性材料の研究 ・アクチュエータ・センサの高性能化に必要な薄膜形成技術の研究 ・真空用ロボットに必要な真空軸受用固体潤滑剤の研究	佐々木 巖
	メカトロニクス, 制御理論, 制御技術応用	メカトロニクスシステムのシステム設計および実現につき理論的および実験的に教育と研究を行ないます。キーワードは精密化（ナノメートルレベル）と高速応答化です。さらに、メカトロニクスシステムが人間と協調する環境を想定し、そのためのシステム設計をハードおよびソフトの両面から教育および研究します。	本田 英己
	エネルギー	地球温暖化、エネルギー問題に対し、温室効果ガス排出の大幅削減が世界的に精力的に推進されています。そこで、再生可能エネルギーの水素等への高効率変換を実現する高温水蒸気電解セルや電力・水素など二次エネルギー間の変換・貯蔵に用いる高効率燃料電池、各種電池等の電気化学デバイス技術の研究を行い炭酸ガス排出のないエネルギーシステムの実現を目指します。	嘉藤 徹

2. 人間知能システム工学専攻

講座名	主要教育研究分野	主要教育研究内容	担当教員
人間知能機械	フィールドロボティクス	ICT技術の発展とともに、ロボットの活動範囲は工場の自動化から極限環境、サービス分野まで拡大しています。社会で活躍するロボットを開発するには、ロボットの知能化や人間/ロボット共存が重要な研究課題です。本研究室ではフィールド実験や競技会を通じてロボットの有効性を検証し、社会に貢献できるロボットの開発を目指しています。具体的には、水中ロボットによる海底調査や水中構造物の検査、トマト収穫ロボットの開発、ロボカップサッカーを題材にしたマルチエージェントシステムの開発等を行っています。	石井 和男
	知能創発ナノシステム	生体の機能に学んだ人工知能(AI)ハードウェアなど新しい情報処理に用いる為の基本的なAIナノ電気デバイスの材料工学に根差した開発およびそれらを組み上げたAI電気回路の実現を目指しています。特に脳型信号発生・伝達、音声・画像認識のためのAIナノデバイスに注目しています。具体的には、スパイクパルスを用いるニューラルネットワークや振動子ネットワークを実現するAIナノデバイスを開発し、さらにそれらを回路化することによりこれまでに類を見ない性質の発現を目指した、材料工学から脳型応用にまたがる広い分野を網羅する基礎研究です。この分野に所属した学生は、研究の過程で、基礎学問としてのメゾスコピック物理学、有機・無機電気物性の知識を得るとともに、産業界で要望されている実践的な最新のAIナノ電気デバイス作製技術・応用法やその回路化技術、脳型応用などを習得することができます。	田中 啓文
	人間機能代行システム	疾病や加齢によって生じる身体機能障害は、ヒトの感覚・運動機能および脳の働きが不十分なために生じます。ここでは、ヒトの感覚・運動機能の特性を心理物理学的実験方法により解析し、その特性に基づき、ヒューマンインタフェースの観点から障害者・高齢者の不十分な身体機能を代行・支援する人間親和性の高い支援装置や機能代行方法の研究開発をおこないます。	和田 親宗
	脳型計算機システム	“人間と自然なインタフェースで意思のやり取りを行い、人間のように自ら考え行動できるロボットの実現”を遠大な目的として掲げ、人間の持つ知能を工学的に実現する“脳型計算機システム”の研究開発を行います。再構成可能半導体FPGA, Many Core CPU, インターネットを複合した“ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク複合体”により、高い演算性能と電力効率を実現する専用性と、多様な問題へ対応できる汎用性を両立するシステムを確立します。これに、生物の脳が持つ学習機能を融合することで、自ら考え、経験を積み、学習・成長する脳型計算機を模索します。さらに、人間の生活空間で人間のパートナーとして働くサービスロボットや自動運転車、人間に優しいインタフェースを提供する知的動画画像処理等へ多角的応用を行います。本分野へ所属した学生は、研究活動を通し、現在の高度情報化社会を支えるハード、ソフト、ネットワークに関する実践的な技術とそのシステム化に関するノウハウを習得できると共に、脳機能という21世紀最大のフロンティアを工学的な立場から切り開き応用する研究テーマへと携わることが出来ます。	田向 権
	人間機能支援システム	計算論的神経科学とロボット開発を行います。(1)腕の到達運動など、人間の運動を計測、解析し、(2)人間の腕の到達運動を説明できるような数学的なモデルを作成し、計算機シミュレーションによって検証します。これらの成果を踏まえた工学的な応用として(3)人間のけん玉やテニスのサーブなどの運動をカメラで観察して人間の動きをうまく真似できたり、人間のように柔軟な動作のできる運動学習ロボットの開発などを行います。	宮本 弘之
	脳型ロボットビジョン	農業現場や海洋環境など実フィールドで活躍するロボットのためのセンシング・制御技術を、生体の情報処理機構を手がかりに確立することを目指します。研究開発した計測・制御技術や装置をロボットに実装し、フィールド実験を介して有用性を検証します。	安川 真輔

	フィールドロボティクス	本研究室では社会に貢献できるロボットエンジニア，研究者の育成を目指し，学生にはフィールドロボティクスを題材に「研究・開発」，「ものづくり」，「データ処理・解析」，「フィールドワーク」の4つに取り組みながら研究してもらいます。機械，電気，制御，システム，情報処理など幅広い分野を総合的に学び，ロボット開発に適用できる人材の育成に取り組んでいます。	西田 祐也
人間知能創成	脳型高次知能システム	脳型人工知能を実現するアルゴリズム開発と学習理論の研究をしています。特に、データを通して普遍的な知識を発見し、ものごとを多面的・多層的に理解する知能アルゴリズムの研究に取り組んでいます。また開発したアルゴリズムをビッグデータ可視化等に応用する研究も行っています。さらに、人間のコミュニケーション解析や行動発達の数理モデルにも取り組んでいます。これらを通して、自己理解や個性が創発する知能の実現に向けてチャレンジしています。	古川 徹生
	人間・社会的知能システム	ヒトやシャカイを理工学的に理解し、それに基づいた支援システムを構成し、さらに社会実装にも取り組んでいます。人工知能・機械学習や制御など数理工学に基づいた知能ロボティクスや、脳科学、スマートライフケア領域における医療福祉系の学術研究は勿論、日本屈指のスマートライフケア共創工房を活用し、支援ロボットのプロトタイプ開発や性能評価を、高齢者、障がい者、医療・看護・介護従事者など多様なプレイヤーと連携して推進しています。近年は、人工筋肉を用いた小型軽量歩行アシスト装置、既存歩行器のアシストロボット化、マルチロボット協調による着衣介助、ソフトロボットハンドや、全身神経筋骨格モデルに関する研究、スマートデバイスを用いた患者の調子予測、深層学習モデルを用いたヒトや動物の行動観察など、多彩な研究を推進しています。	柴田 智広
	知能推論システム	ヒトの行動を計測したり、日々の状態を計測、収集することで、行動の予測などのより深いヒトの理解が可能になると考えています。このためには、行動など表面的に観測できるものから、内部の状態を推定することも必要になります。内部状態も考慮した行動モデル、状態遷移モデルを実現することで、行動予測や行動シミュレーションなどの実現を目指しています。	堀尾 恵一
	センサ行動認識・予防医療応用	スマートフォンやセンサから集められたデータから行動を認識し様々なサービスに活用する技術を研究します。医療・介護ビッグデータも集めながらAIを育てます。	井上 創造
	脳型知能創発システム	非線形力学の方法論を基盤に、脳、身体、社会の三つの発想から脳(知能)や身体(制御)の計算原理を追求し、それを再現するロボットや人の支援装置の開発など、理論と実装・実験を対にした理工学的研究を行います。	我妻 広明
	感性情報処理	人間の主観的な特性に着目し、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション研究のひとつとして感性情報処理に関する研究開発を行います。印象や嗜好といった人間の感性と結びついていると考えられる要因を探り、数学的・工学的にモデル化し、情報システムのデザインに応用します。パターン理解やソフトコンピューティングなどの基礎技術だけでなく、認知科学や心理学の知見についても学び、情報処理技術と人間の特性を融合させることで、より人間と親和性の高い情報システムをデザインすることを目指します。	吉田 香

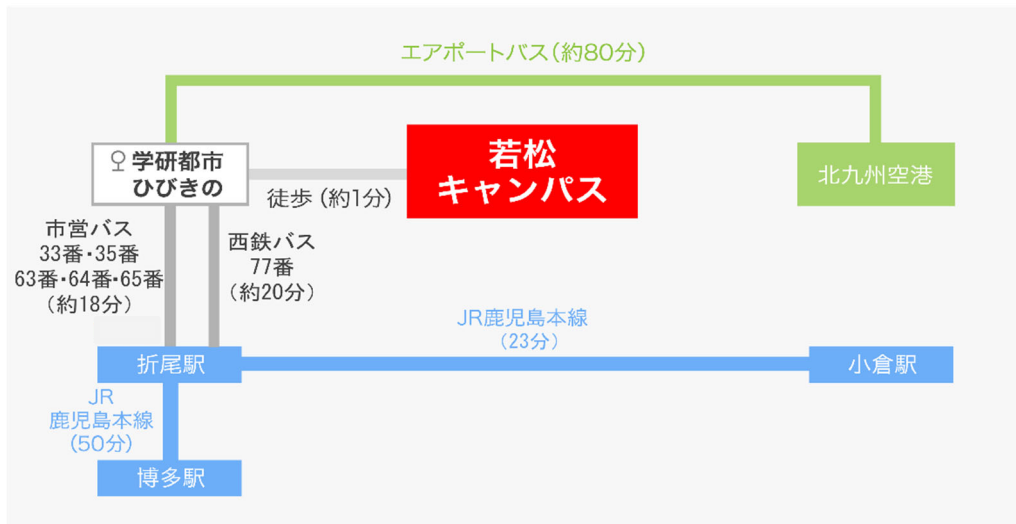
	生物規範知能システム	生物を規範としたロボットの設計や制御、情報処理に関する研究をしています。生物は、外力の影響を受ける身体のやわらかさや、情報を劣化させるノイズの存在など、一般に工学的な欠点・問題として扱われる特徴を持っていますが、それらを逆に利用して優れた適応性を実現していると言われています。そのようなメカニズムを工学的に理解・応用するのが研究の主眼です。研究テーマは、ロボットのハードウェア開発から学習制御システムの提案・実装、シミュレーションまで、幅広く柔軟に設定することができます。	池本 周平
人間・脳機能	脳型動的情報システム	下等生物の神経系から高等生物の脳内まで観察される神経リズムは、生物の能動的情報処理機構と関連があります。この様な脳内神経リズムを用いた能動的情報処理機構を、実際の動物の脳を用いた生理学実験とコンピュータを用いたシミュレーション実験、さらにヒトの脳波実験によって解明し、教育と研究を行なっています。また脳信号によりコンピュータ・機械を制御する研究も行っています。	夏目 季代久
	数理脳情報学	脳の内側側頭葉のニューラルネットワークモデルと魚の行動に関する研究と教育を行っています。内側側頭葉モデルでは、特に記憶・学習に関する研究を行い、魚の研究では電気受容器を有する魚の行動について研究を行っています。	立野 勝巳
	脳型分子感覚情報処理	外界環境の検出およびその情報伝達には、受容細胞内において多様な分子が動的に関与しています。化学物質受容細胞の化学物質検出機構、情報処理機構を生理学的に研究し、これらの機能発現に関与する分子を遺伝子レベルで解明しています。受容細胞の特徴を利用した新しい信号処理システムの開発を目指しています。	大坪 義孝
ヒューマンテクノロジー	知識情報処理	知的システムにおけるアルゴリズム開発の基礎的方法論および応用事例研究を行います。本研究では、自然界や人類が持つ「知」を学ぶことで、問題解決やコミュニケーションに役立てること、すなわち価値創造に結びつけることを重要視しています。具体的には、ファジィ論理やソフトコンピューティングおよび統計解析などの基礎的内容の理解と同時に、健康や環境分野を対象として応用研究を行います。特にセンサデータ解析に基づく、指標・基準・因果関係の開発と活用方法の構築を目指しています。また、人間-機械協調系における社会的知能について検討を行います。さらに、企業における研究開発のあり方について紹介、議論します。	中嶋 宏
	画像センシング	人間の視覚機能を工学的に実現するための基礎的方法論および応用事例研究をおこないます。人間は外界の光が様々な物体に反射して目に飛び込んできた結果を利用して瞬時に意味のある情報に変換しています。これら一連の機能をカメラや照明装置、計算機を駆使したり多様なアルゴリズムを活用することで、人間の視覚を超える機能として実現することを目指しています。	諏訪 正樹
	生物模倣型ロボット	生物の機能・能力・構造からヒントを得て工学に応用するバイオミメティクスに注目し、ロボットの新しい移動形態・制御システム・情報処理システムを開発することを目指します。	※ 松尾 貴之

※印の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

■ 周辺案内図



■ 交通機関



■ 建物配置図



- | | |
|-----------------------------------|-------------------------|
| 1 九州工業大学
大学院生命体工学研究科 | 11 運動場 |
| 2 学術情報センター
(図書館・情報処理施設) | 12 テニスコート |
| 3 会議場 | 13 クラブ棟 |
| 4 産学連携センター | 14 早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 |
| 5 体育館 | 15 早稲田大学 情報生産システム研究センター |
| 6 教職員宿舎 | 16 花村池 |
| 7 北九州市立大学 国際環境工学部
大学院国際環境工学研究科 | 17 配水池 |
| 8 環境エネルギーセンター | 18 情報技術高度化センター |
| 9 北九州市立大学 計測・分析センター | 19 留学生宿舎 |
| 10 北九州市立大 特殊実験棟 | 20 北九州市立大学 留学生会館 |
| | 21 共同研究開発センター |
| | 22 事業化支援センター |
| | 23 技術開発交流センター |

九州工業大学大学院生命体工学研究科教務・入試係

〒808-0196 北九州市若松区ひびきの2番4号

TEL : 093-695-6006 (直通)

E-mail:sei-nyushi@jimu.kyutech.ac.jp

<http://www.kyutech.ac.jp/>